

新たな委員会構成で会の活動を充実

平成23年度・第19回総会開催

信州名匠会は6月29日、長野市のメルパルク NAGANO で第19回通常総会を開き、平成22年度の事業報告や23年度の事業計画などを承認した。冒頭あいさつに立った降幡廣信副会長は、「前向きな姿勢で新しい年度に臨まれることを期待します」とし、総会を契機に会員間のさらなる親睦や交流を図るよう促した。

議事では、副会長に信州大学工学部建築学科教授の土本俊和氏を迎え、三人体制とした他、新顧問に川向正人氏（東京理科大学理工学部建築学科教授）、理事に中村光敬（中村木工所）と西宮登喜男（綿内瓦工業）の二氏を加えることを了承した。また、月例で行っている研修会の会場について、従来行ってきた宮本忠長建築設計事務所を基本会場とし、第2会場に松本市の降幡建築設計事務所を充てることも決めた。スリースター制度の認定書



44名（懇親会には42名）が出席して開かれた総会

授与式では、新たに26人が認定され、代表者に認定書が手渡された。

総会后、小布施堂社長で当会顧問の市村次夫氏による「歴史から学ぶ」と題する講演が行われ、小布施の事例から歴史のコードを読み解くヒントが紹介された。懇親会には市村氏のほか馬場璋造氏、東秀紀氏ら顧問のほか、本年度入会された4名の新会員を交え、和やかに交流・懇親を深めた。



会員にスリースター制度認定書を手渡す降幡副会長

平成23年度 信州名匠会 年間スケジュール

平成23年

- 6月29日(水) 第17回通常総会・講演会・懇親会 (総務)
- 7月27日(水) 第1回研修会A(総務・会員)
- 8月24日(水) 第2回研修会B(事業・技術)
- 9月10日(水) 親睦スポーツ大会C(会員)
- 9月28日(水) 第3回研修会B(事業・技術)
- 10月26日(水) 第4回研修会A(総務・会員)
- 11月12日(土)～11月13日(日)
研修旅行A、B、C(事業・技術、協力：総務会員)
- 12月7日(水) 第5回研修会B(事業・技術)

平成24年

- 1月18日(水) 新年会C(会員)
- 2月22日(水) 第6回研修会A(総務・会員)
- 3月28日(水) 第7回研修会B(事業・技術)
- 4月21日(土) 第8回研修会「制作教室」B(事業・技術)
- 5月23日(水) 第9回研修会A(総務・会員)
- 6月27日(水) 平成24年度 通常総会(総務)

※研修会 場所：基本会場 (株)宮本忠長建築設計事務所
第2会場 (株)降幡建築設計事務所 時間：18:30～20:30
※委員会の企画内容により異なる場合があります
※研修内容・場所・日時については決定次第、順次お知らせいたします。

A 会員集会・委員会 B 学習・見学・実習 C 交流
カッコ内は担当委員会

平成23年度通常総会 記念講演会

「歴史から学ぶ」

株式会社小布施堂・株式会社榊一市村酒造場 代表取締役
財団法人北斎館理事、信州名匠会顧問 市村次夫氏



講演する市村氏

市村氏は、小布施の町並み修景事業を中心に、「歴史から学ぶ」をテーマとして、会員に語りかけた。話題は多岐にわたったが、本稿では2点に絞って、要旨を紹介する。

村松貞次郎先生の思い出

信州名匠会の発足当時、初代会長の村松貞次郎先生をご案内して、小布施を見て回りました。

そのとき、村松先生から宮本忠長設計事務所の久保隆夫さんと私が大いに怒られたことがあります。高井鴻山記念館の裏門は、元は土壁、砂壁で、窓枠だけが漆喰でした。どの地域でも建築のコードみたいなものがあります。小布施では、一番グレードの高い建物は全部漆喰、次が砂壁に窓枠だけ漆喰、さらに粗末な建物になると全部砂壁、さらに粗末になれば粗壁です。ところが、当時の同館を建てた小布施町は、一般公開するにあたって、解体修理をやったのはいいのですが、窓枠だけ漆喰だった建物を、全部漆喰にしました。しかも、下見板は窓の辺りまできている非常に特徴的な高い下見板だったものを、ごく一般的な高さに抑えてしまった。色も黒だったものを、焦げ茶色にしました。我々も若造で、町に文句を言える立場ではありませんでしたから、内心、^{じくじ}忸怩たるものがあつたのですが、ずばり、村松先生にその辺を指摘されました。

「まったく、この構造にこの漆喰はおかしいだろ。こんな恥ずかしいことなぜやるんだ」と大きく怒られました。この先生はやっぱり当てになる。信頼のできる先生だなと、いまでも思い出されるわけです。

法律の3つの欠点

私がなぜ歴史というものを意識するようになったかという、30年くらい前から、宮本忠長先生のご指導のもと「町並み修景事業」というものを行ったからです。事業を行うに当たって、単に景観の整備だけではなく、これを出発点として、小さい町だけれど、将来、小布施という町を、どのようにしていったらいいかという議論から始めました。そのとき真っ先に議論されたのが、日本人の癖と法律についてです。法律や条令というのは、たいへんな武器であると同時に欠点も内包しています。



町並み修景事業の中核を成す小布施堂・榊一市村酒造場の笹庭空間を視察する、当会平成23年度第2回研修会【小布施 まち並みウォッチング】参加者たち(8月27日(土))

私たちがなぜ歴史というものを意識するようになったかという、30年くらい前から、宮本忠長先生のご指導のもと「町並み修景事業」というものを行ったからです。事業を行うに当たって、単に景観の整備だけではなく、これを出発点として、小さい町だけれど、将来、小布施という町を、どのようにしていったらいいかという議論から始めました。そのとき真っ先に議論されたのが、日本人の癖と法律についてです。法律や条令というのは、たいへんな武器であると同時に欠点も内包しています。

欠点の一つ目は、ある目標値があつたときに、法律はそこまではいかず、最低限のラインを引く。一旦、法律でラインができると、黙っていればもっと上のものができたのに、法律のラインに収斂していくということです。たとえば、耐震基準が昭和56年以後、変わりました。ある施主が「基準以上のことをやってくれ」というと、建築関係者は「無駄です」と言う。「法律ではここまでクリアすればいい」と言われると、「そうか、無駄か」と納得せざるをえません。かくして、全て法律のラインに収斂していきます。

耐久性だけではありません。いろんな意味で、法律さえクリアすればという癖ができてしまいます。法律がコードになっていくのです。法律がゆえにレベルの低いものができてしまう。これが法律、あるいは条例の決定的な欠点だろうと、当時、考えたわけです。

その次は、一旦、規制的な法律ができるというようなことになると、法律が施行される前に駆け込みでやらないと損をしたような気分になるということです。施行までの間に何かしなくては損だという気分が駆り立てられる。これが法律の二つ目の欠点です。

三つ目の欠点は、規制は、さかのぼって適用できないということです。法律をつくることによって、それ以前のもの利益を保護してしまうという場合があります。一番良い例が、長野県は条例でモーテルを禁止しています。しかし、条例ができる前のモーテルというのは残っている。

商売をしていて、何の商売でもそうですが、一番嫌なことは後から新規参入されることです。ところが、条例とか法律が新規参入を防いでくれるわけです。すでに商売をやっている人にとっては、こんなに良いことはない。

30年前に議論したのは、どうも法律はそういう3つの欠点があるということでした。だから小布施は、今後、条例ではなく、実例で良いものをつくって、「あれ良いじゃないか」と、そういう流れをつくっていく方が実際のだということになりました。つまり、波及効果をもくろむということです。これが小布施の町並み修景事業の出発点でした。

以上のほか、市村氏は「居心地の良い外部空間」「使う庭の美しさ」「公と私」「日本人の空間感覚」「求められるインテリジェンス」などのテーマで、多様な視座から語られた。講演要旨の全文は、信州名匠会ホームページをご覧ください。<http://www.meisyokai.com/>

二十ツ星1名、十九ツ星1名など26名の新認定者が誕生

～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月1回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成11年に創設された。研修会へ1回出席するごとに1単位を加算し、10単位で星1つを与える。発足から12年を経て、今年度は二十ツ星認定者1名をはじめ一ツ星までの新規認定者26名が誕生し、通常総会において認定証を授与された。貴重な研さんの場である定例研修会は各委員会の運営で充実しつつあり、会員諸氏の精力的な参加に、ますます期待が高まっている。

◆「スリースター制度」平成22年度認定者

(平成23年6月現在、五十音順、敬称略。○は今年度の新規認定書授与者)

☆☆☆二十ツ星1名☆☆☆
○西澤嘉雄／(有)エヌ設計

☆☆☆十九ツ星1名☆☆☆
○坂田守夫／坂田工業(株)

☆☆☆十七ツ星1名☆☆☆
○堀誠／建築工房アカシヤ

☆☆☆十三ツ星1名☆☆☆
五明良平／(株)五明

☆☆☆十二ツ星2名☆☆☆
○中村光敬／(有)中村木工所
○高木茂夫／松田産業・南信(株)

☆☆☆十一ツ星1名☆☆☆
○吉田雅彦／(有)スタジオスペースツ

☆☆☆十ツ星3名☆☆☆
○宮下恒夫／サンコー特機(株)
○高梨廣男／(有)高梨建築
○西宮登喜男／(株)綿内瓦工業

☆☆☆九ツ星1名☆☆☆
小川明／建築工房空

☆☆☆八ツ星4名☆☆☆
鎌倉良収／(株)鎌倉材木店
鈴木隆／ルームデザインハウス
○西澤 広留／(株)宮本忠長建築設計事務所
○増田幸雄／匠建設(株)

☆☆☆七ツ星10名☆☆☆
山本耕平／長野サウナ販売(株)
宮本忠長／(株)宮本忠長建築設計事務所
竹内公夫／(株)ビホームテクノクリエート
伊藤章／(有)アキ・プランニング
水沢仁亮／(株)二見屋
○岩井秀樹／岩井工業(株)
○久保敏幸／(株)さつき苑
○宮澤郁夫／宮澤建築
○犬飼栄治／(株)シナノ大理石
○樋口豊／(株)ライフエンジニアリング

☆☆☆六ツ星3名☆☆☆
町田幸一／(株)町田電機商会
○佐藤光博／(株)二見屋
○海野政也／(株)海野鉄筋工業所

☆☆☆五ツ星4名☆☆☆
内山保／朝陽工芸(有)
宮川裕行／三ツ友建築企画
渡辺昌祺／渡辺硝子建材(株)
○井内猛男／(株)井内工務店

☆☆☆四ツ星4名☆☆☆
大庭修／(株)トライアン
藤沢和裕／(株)山二
倉橋英太郎／(株)倉橋英太郎建築設計事務所
○落合一視／落合コンサルタント

☆☆☆三ツ星8名☆☆☆
山田一忠／インテリア販売ヤマダ
出澤潔／出澤潔建築設計事務所
村越久子／雪しろ窯
中村泉／(有)ビーイング
山崎邦男／山崎工務店
山中毅彦／山中桐箱店
○降幡廣信／(株)降幡建築設計事務所
○嶋本耕三／(株)宮本忠長建築設計事務所

☆☆☆二ツ星13名☆☆☆
小林清英／(株)清蘭堂
坂戸雄世／(有)サカト産業
常田亀久夫／(株)普平土建
松木和善／(株)山翠舎
山崎慎一郎／(有)山崎屋木工製作所
藤田勇／藤田建築
鳥羽英夫／長野サウナ販売(株)
荒井和夫／(株)荒井造園
左右田光／インテック左右田
矢島建二／(株)矢島工務店
関克弘／坂田工業(株)
○中沢英雄／(有)中沢建具店
○小山巧／(株)田澤工務店

☆☆☆一ツ星9名☆☆☆
前島浅男／大工
山口真一郎／(株)サンワ
長澤和芳／(株)角藤 長野本部
松下重雄／(有)みずゞ設計
五十嵐厚生／(株)井内工務店
東出隆彦／ステンドグラス作家
柳沢邦夫／(有)柳沢木工所
○中島 重雄／中島建築

平成22年度 信州名匠会 事業報告(人数は参加者)

平成22年

- 6月23日(水) 第18回通常総会・講演会・懇親会「たぐみ」№026 夏号 発行
- 7月25日(日) 第1回研修会「日本の文化再考」諏訪大社秋宮参拝改修工事見学参加者 23名
- 8月28日(土) 第2回研修会「まちなみウォッチング～長野市民会館見学」参加者 30名
- 9月10日(金) 親睦ゴルフ大会 菅平グリーンゴルフ 参加者 14名
- 9月25日(土) 3回研修会「小布施第2まち並み修景事業かてんばばショップ小布施店新築工事」現場見学会 参加者32名
- 10月23日(土) 4回研修会「軽井沢 レイモンド設計(旧足立別邸 軽井沢の新スタジオ)」見学会 参加者 43名
- 11月13日(土)～11月14日(日) 研修旅行「埼玉 千葉県の建築をたずねて」参加者 31名
- 12月11日(土) 5回研修会「松田家資料保存整備事業」現場見学会 参加者 26名

平成23年

- 新年会 至四川楼 参加者 35名
- 1月19日(水) 「たぐみ」№027 初春号 発行
- 1月19日(水) 第6回研修会「宮澤さんの住まい」そとうち 環境を考える参加者 27名
- 2月17日(木) 第7回研修会「会員集会」これからの信州名匠会を考える参加者28名
- 3月23日(水) 平成22年度 第一回理事会「会員集会」での意見・平成23年度信州名匠会総会 について
- 4月11日(月) 第8回研修会「陶芸教室」参加者 19名
- 4月23日(土) 第9回研修会「農中邸現場見学会」伝統工法でつくる参加者 21名
- 5月28日(土)

雪しろ窯陶芸教室(平成22年度第8回研修会)降幡副会長賞に轟光洋氏

4月23日、村越久子氏(創造学園大学芸術学部教授)のご指導のもと、「雪しろ窯」(上市市武石)にて恒例の陶芸教室が開かれた。会員のご家族など19名が参加して開かれた。お昼をいただいた後、スタッフのみなさまの手ほどきを受けながら、土と向かい合った。総会会場では、参加者の作品が展示された。今年も傑作には「副会長賞」、「村越賞」などそれぞれ賞が贈られた(敬称略)

- 降幡副会長賞 轟光洋／轟左官
- 村越賞／唐澤尚生／(株)宮本忠長建築設計事務所
- 馬場賞 中村光敬／(有)中村木工所
- 東賞 町田暢子
- 市村賞 川向博子



力作が並んだ総会の「陶芸アートギャラリー」。

親睦ゴルフ大会 藤田勇さんが二連覇

スポーツを通じ会員同士の親睦はかる恒例の懇親ゴルフコンペが9月21日、16名が参加して菅平グリーンで行われた。藤田さんが雨・風にも負けずハーフ41という素晴らしいスコアで見事昨年に続き優勝された。

プレー後のパーティーでは、会員委員長の西澤氏から今後の会員委員会の活動についての情報交換もあり、各賞が渡されて、和気あいあい会員同士の親睦を深める思い出深い一日となった。(敬称略、順不同)

坂田守夫/坂田工業(株)、西澤嘉雄/(有)エヌ設計、小川明/建築工房空、西宮登喜男/(株)綿内瓦工業、水沢仁亮/(株)二見屋、内山保/朝日工芸(有)、北澤徹/(有)北澤ステンレス工業、竹内公夫/(株)ピフォームテクノクリート、風間洋二/(株)角藤、高木茂美/松田・南信(株)、山田一忠/イアンテリア販売ヤマダ、吉田雅彦/(有)スタジオスペースツー、藤田勇/藤田建築、黒澤忠/(株)クロサワメタル、西澤広智/(株)宮本忠長建築設計事務所



会員の動向 (平成22年7月～平成23年6月。敬称略)

- 担当者の変更■ 賛助会員 (株)本久 前任)岡沢元彰 新任)竹内 光平
- 退会 個人会員■ 松木重雄/建具・家具 (株)山翠舎、柳沢邦夫/建具・家具 (株)柳沢木工所、五十嵐厚生/型枠大工 (株)井内工務店、山崎邦男/大工 山崎工務店
- 入会 個人会員■ 川上恵一 (有)かわかみ建築設計事務所 建築設計 〒390-0874 松本市大手5-1-3 ☎0263-33-8200
松澤朋典 小谷屋根 萱葺き 〒399-9511 北安曇郡小谷村大字中土3492-4 ☎0261-82-2701
北澤徹 (有)北澤ステンレス工業 金物 〒381-2224 長野市川中島原1163-8 ☎026-292-5507
市川均 (株)第一ネームプレート 看板・サイン 〒381-2215 長野市稲里町中氷鉋424-1 ☎026-285-2141

定例研修会●Report

(平成23年5月～10月)

平成22年度第9回研修会 【「伝統工法土壁の家」 農中邸新築工事現場見学会】

5月28日(土)

講師：尾日向 辰文 氏(尾日向辰文建築設計事務所所長)

宮澤 郁夫氏(宮澤建築 棟梁、当会理事)

参加者：22名

伝統技術を受け継ぐ大工と設計者、そして施主



大きな貫の通る大黒柱と
トップライトのある吹抜
けを見あげる

安曇野市松川で建設中の伝統工法による土壁の家を見学させていただいた。設計者の尾日向氏から設計主旨、建物の概要について、棟梁の宮澤氏から今回の工法の概要とポイントや工夫等についてお話を伺った。

2階建ての住宅で、4.5寸勾配の切妻屋根をかけた6間×6間の田の字型の真ん中に、2層の吹抜の茶の間があり、その周りに各室が配置された。

宮澤氏からは工法について、「筋交いや金物を使用した建物に比べ、貫を用いた工法は変形には弱いかもしれないが、最終的な耐力は強い」「ケヤキの赤味の強いところは強く込栓に使うが、ナラなどの柔らかいものはいっしょに引き抜かれてしまうため、込栓には向かない」…このように木材は適材適所、使い分けに気を付けていること。また、「込み栓の位置や幅を工夫することで、抵抗力と、柔軟な部分を持ち合わせたものになること」等、興味深いお話を伺った。

「尾日向氏のように伝統工法の特質を十分に理解し、図面を描き、職人に場を提供してもらえることが大切であり、設計者には職人を育てるという意味も少し意識して、若い職人たちに工法を引き継いでいっていただきたい」と語った。

降幡廣信氏(当会副会長)は総評として、「創作だけでなく、日本の伝統を引継ぎ、その伝統をそれぞれ創意工夫して、伝統として次の時代へ引き継いでいく。過去から未来へ中間的な立場に立たされていることを心にためながら励んでいくことが大切である」と結んだ。(文・唐澤尚生)



宮澤棟梁

平成23年度第1回研修会 【平成23年度 第1回委員会・会員集会】

7月27日(水) / 場所：トイゴ / 参加者：20名

各委員会で、活発な意見交換。本年度の事業始動

会の冒頭、総務委員長から今年度委員会構成に至る経過、目的について説明があり、各委員会に分かれ、各委員会の

担当事業、検討課題について熱く意見交換がされた。

総務委員会では、①各委員会との連絡・調整機能の充実。②会員間の連絡手段として有効な、会員名簿にメールアドレスを整備する。

会員委員会では、①優れた技をもつ新会員を会員アンケート等活用し、本年5人を目標に会員増強を図る。②職人としての生きざまを話してもらおう等、会員集会を企画。③恒例のゴルフ大会以外のスポーツ大会も企画、会員交流の機会を増やす。

事業・技術委員会では、①実物を作る等、テーマを決めた研修会を企画。②会員の仕事場見学については、時間の制約で難しい面があるが、今後検討。③部会制については、正副委員長で話し合う。

広報・編集委員会では、①会報「たくみ」記事における会員の協力。②ホームページで会員・新人紹介等の企画を検討、これを集積し、たくみ文庫に繋げる。③内向きでなく外向きの広報、社会への発信方法について、ホームページ充実を含め検討。

これら各委員会の方針をもとに会員の協力で会の運営・本年度事業を進めて行く。また、会員の落合一視氏が執筆、制作に関わった本、「信州の橋百選」の紹介もされた。(文・西澤広智)

平成23年度第2回研修会 【小布施 まち並みウォッチング】

8月27日(土)

講師：西澤 広智(勝宮本忠長建築設計事務所設計長、当会事務局長)

参加者43名(名匠会32名、JIA13名)

「ソトはミンナのモノ、ウチは自分達のモノ」 小布施の魅力を探る



池田邸母屋が「かんでんばば
ショップ小布施店」に蘇る。

JIA長野県クラブまちづくり委員会主催の本年度第一回まち並みウォッチングに信州名匠研修会として大勢が参加した。西澤氏の先導で、今年一部が完成した「小布施町第2町並み修景事業」のエリアと、約30年前に始まった「小布施悠然楼周辺町並み修景事業」のエリアを見学した。

「小布施町第2町並み修景事業」の西エリアは、「かんでんばばショップ小布施店」を中心に、旧池田邸の土蔵2棟も改修し、駐車場ひろばを含む一体を公益性の高い空間として修景したものである。

「ソトはミンナのモノ、ウチは自分達のモノ」を合言葉にエンドレスで町が醸成していく小布施の魅力を探る。改めて「たくみ」一人一人が「まち」を創っている自覚を持つ大切さを感じた一日であった。(文・西澤広智)



かんでんばばショップ小布施店の前で
西澤氏の説明を受ける。

平成23年度第3回研修会 【「長野市立博物館」見学会 — 長野市立博物館のできるまで】

9月24日(土)

講師：西澤 広智 (宮本忠長建築設計事務所設計長)、
西澤嘉雄 (N設計所長)
井内 猛男 (井内工務店 社長)、
青木信照 (当時現場副所長、元守谷商会)

参加者：30名

「信州名所会」発足のきっかけになった現場を体感



一写館。思い出を語り合う工事関係者

今年の5月に JIA25年賞を受賞した長野市立博物館の見学会が行われた。同館は、県下初の公正な指名設計競技によって当会会長、宮本忠長氏が設計者に選ばれた。このコンペの

審査委員長であった村松貞次郎(初代信州名匠会会長)先生の「長野市立博物館に携わったような情熱のある長野県内の職人を「ものをつくる」という共通項で場を作って継続してみては」という助言で信州名匠会は発足した。

「風雪に耐え長持ちする建築」とするために、軒の出の深い耐候性高張力鋼板の大屋根となり、寒冷、凍結、雪氷に強い技法ディティールが工夫されたこと、「風土に忠実に多くの市民から親しまれる建築」とするために、コンクリート打ち放し仕上げに技芸が加えられたこと、また、そのために大変な苦勞、工夫が必要であったことが説明された。

そのひとつに丸柱の丸型化粧出目地がある。この太さの丸柱の型枠は普通4枚のコンパネの継目の凹目地納まり、手指が切れる危険があると現場試作にてわかった。凹目地の両側に丸型出目地を作って保護をすることによって、荒々しいコンクリート打ち放しが、人が手を触れられる仕上げ材に変わったという。

当時の現場に携わった五十嵐さんの言葉が井内さんから紹介された。30年前、長野市立博物館の現場では互いに知恵を出し合い、協力し、設計者・施工者・職人がひとつになっていた。出目地は設計事務所、JVの間でできるかできないか議論が続いたが、結局職人の「おもしろいからやろう」という心意気で結論が出たという。

また現在の現場の問題として、設計図、施工図がCDによる図面となり、図面が完成すればそれだけで現物ができると思い込んでいる経験不足の施工現場員・設計者が増え、納まりを見通す施工面を考えたもので無くなってしまったことを指摘した。

「信州名所会」発足のきっかけとなった「長野市立博物館」の見学会は、会員に改めて「たくみ」の技と心意気の大切さを投げかけた。(文・山岸真子)

平成23年度 第4回研修会 【地元長野の歴史を識る —千曲市森將軍塚古墳館見学】

10月29日(土)

場所：千曲市森將軍塚古墳館
講師：千曲市 学芸員 小野紀男氏
参加者：25名

郷土の古代人による大規模事業に思いをはせる

会員委員会の企画で「地元長野の歴史を識る」というテーマで千曲市の森將軍塚古墳館を訪れた。古墳館の前より施設のバスに乗って急坂を登ると眼下に復元された古墳と善光寺



千曲市森將軍塚古墳を背景に

平が一望できた。天気もよく壮大な眺めに、ここに埋葬するよう願った有力者の気持ちがかうかがい知れる思いだった。

この古墳の位置は、東は関東から、南は中信を経由して関西から、北は越後から、街道の結節点となっていて、交通、物流、文化の集まる場所だった。米の生産が多く、埋葬品からも大和王朝と結びつきの強い大規模な地域の有力者であったと考えられている。

古墳館に戻ってから、石室の原寸復元模型を見ながら説明していただいた。石室は赤く塗られ、材料は壁にべんがら(松代で採れる)と床に硫化水銀(秩父・飛騨のもの)を使用されている。赤は魔除けの意味があり、床と壁とで発色の違う材料を使ったことも意味があったようだ。その名残が紅白の幕となって現在に伝わっている。

今回の研修会では、身近にこのようなすばらしい施設があり、また、歴史の楽しさや奥深さを知ることができ、とても有意義な研修となった。(文・会員委員会 小川明)

降幡副会長 古民家再生で初の個展を開催

当会副会長の降幡廣信氏は10月、初個展「古民家再生にかける情熱と軌跡 建築家降幡広信の世界」を、地元で開いた。降幡氏は、「人に医者がいるように建築にも医者がいなくてはかたじけなく」との思いで、雨漏りをしていた板屋根や台所、梁などを直すことから、古民家再生の道に入ったという。日本のこれからの住まいや地方のあり方を問いかける展覧会となった。

当会専務理事・坂田氏が、厚生労働大臣表彰を受賞

当会専務理事の坂田守夫氏が、「技能検定関係功労者」として、平成23年度職業能力開発関係厚生労働大臣表彰を受賞した。技能検定は、働く人々の持つ技能を一定の基準により検定し、国として証明する技能の国家検定制度。坂田氏は技能検定委員として永年にわたり従事し、顕著な功績が認められた。